

学校名 (生徒数)	近江八幡市立八幡東中学校 (575人)
--------------	------------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：近江八幡市上田町 1751 番地

電話番号：0748-37-1112

【研究の目的， 研究内容】

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題

A問題から

- ・ 文脈に即して漢字を正しく書く力
- ・ 単語の類別・表現の技法について理解する力

B問題から

- ・ 複数の資料から適切な情報を得て自分の考えを書く力
- ・ 文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く力

(2) 課題解決に向けた改善策

- ・ 上記の課題について、改善策としての取組を昨年度に引き続き校内研究に位置づけて国語科部会を中心に進める。
- ・ 昨年度の実践を踏まえて、今年度は第1学年で授業研究を設定し、本校の課題である記述力を高めるための授業の手だてを工夫し、実践する。
- ・ 授業後の検証のため、評価問題に取り組みさせて定着をみる。

(3) 研究体制

研究推進委員会

(校長・教頭・主幹教諭(研究主任)・各学年担当・特別支援担当)

↓

各教科部会(国語科部会)

各学年部

(4) 1年間の主な取組の経過

- | | | |
|-------------|------------------|-----------------------|
| ・ 4月 6日(月) | 第1回教科部会 | 今年度の取組の検討 |
| ・ 5月 1日(金) | 全国学力・学習状況調査の自校採点 | |
| ・ 8月20日(木) | 第2回教科部会 | 調査結果の分析と研究授業の構想検討 |
| ・ 10月 1日(木) | 第3回教科部会 | 研究授業指導案検討 |
| ・ 10月 7日(水) | 第4回教科部会 | 指導主事来校・助言 |
| ・ 11月18日(水) | 校内授業研究会 | 1年国語科
「蓬萊の玉の枝」竹取物語 |
| ・ 12月15日(火) | 評価問題の実施と採点 | |
| ・ 12月22日(火) | 国語科教科部会 | 評価問題結果の分析と研究のまとめ |

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

- ・昨年度の取組を踏まえて、本校生徒の学力の課題や実態把握に努め、課題克服のためのスモールステップを工夫し、実態に応じた具体的な学習支援の方法を研究し推進する。
- ・教科部会を中心にデジタル教科書や電子黒板、ICTを活用し、学習意欲を高める指導方法や支援について検討し、研究授業を行い、指導力の向上に努める。
- ・本校の課題である「書くこと」について、ワークシートの工夫や授業方法の工夫として、交流することで生徒の記述力や思考力を高める。
- ・国語科の授業研究をとおして、各教科における言語活動の充実を具体化する授業実践を提示し、授業改善に取り組む。
- ・昨年度に引き続き、1年生の国語科の授業研究を中心に本校の校内研究をすすめ、各教科における言語活動の充実を図るためのモデルを示す。

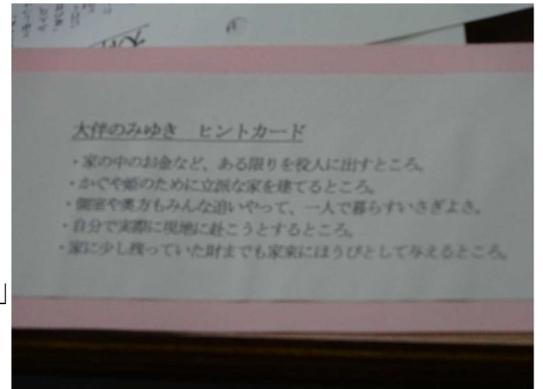
【古典の学習に関心を持って取り組ませる工夫】

1年生「蓬萊の玉の枝～竹取物語」を通して実践した。古典教材に意欲関心を持って取り組めるよう指導を工夫した。さまざまな文章を読んで、必要な情報を集め、自分の考えを書きまとめる学習を行う。たくさんの資料の中から、必要な部分を読み取って得られた情報を課題解決に活かす。



【スモールステップを工夫した授業】

お互いが読み取った情報を集めて書き出し、グループの意見としてまとめ、発表する。話し合いが進まないグループには「ヒントカード」を用意する。情報量が膨大なため、文章を読み切る力が必要である。生徒の中には、どの情報を読み取ればよいかとまどい、あきらめる生徒もいる。「ヒントカード」は、どの部分を読み取れば、必要な情報になるのかわかるようになっている。



【交流を取り入れた授業】

読み取った情報を交流して、付箋に書き出す。書き出した情報を共有して、発表に使える内容を検討する。書いてあることを根拠として、発表する学習を通して、根拠を明確にして自分の考えを書きまとめる力を身につける。



【振り返りシートを活用した実践】

6	5	4	3	2	1	
りハールを 行	発表の 準備完了	推しアプリンドを フリッパに書き る	推しポイント を 修正する	推しポイント を 修正する	推しポイント を 修正する	推しポイント を 修正する
D C B A	D C B A	D C B A	D C B A	D C B A	D C B A	評
わかったこと・考えたこと・疑問	わかったこと・考えたこと・疑問	わかったこと・考えたこと・疑問	わかったこと・考えたこと・疑問	わかったこと・考えたこと・疑問	わかったこと・考えたこと・疑問	わかったこと・考えたこと・疑問

「單元のあて」集めた情報を根拠として人物像を説明することができる。

「竹取物語」の推し貴公子は誰!?

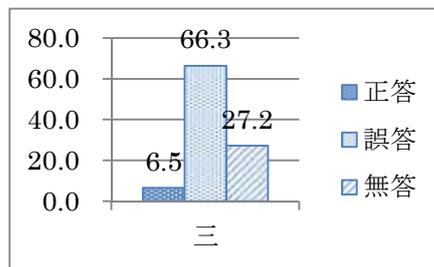
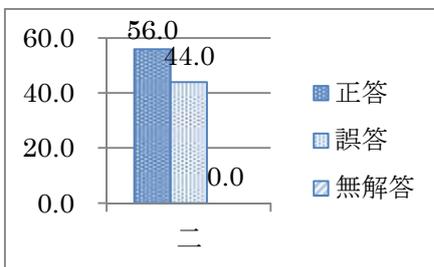
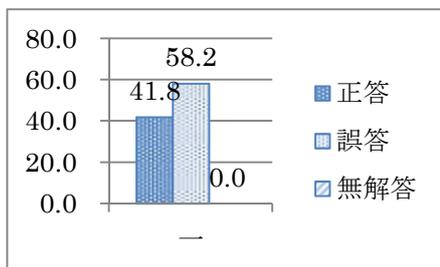
1時間の授業の終わりに振り返りシートを書き、1時間の授業でわかったこと、考えたこと、疑問を記録していく。
1時間ごとの学習の記録を残すことで、自分が学習した内容を振り返ることができ、次の学習課題についての意識を持たせることができる。事後の評価にも活用することができる。

【研究成果と課題】

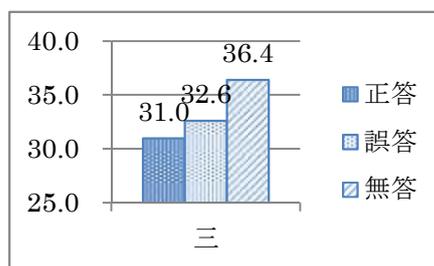
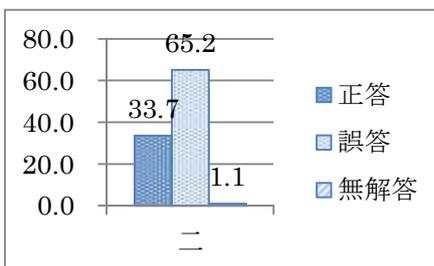
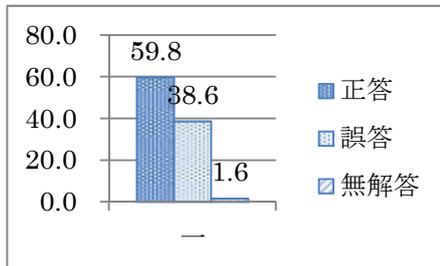
(1) 研究成果

[評価テストの結果から]

大問1 ポスターセッション



大問2 竹取物語



- ・評価テストの結果からは選択肢問題について無解答の数が少なく、よく問題に取り組んでいることがわかる。
- ・大問2の小問3作文については、無解答も多いが、正答も3割程度あり、授業の成果としてとらえることができる。

[授業の振り返りから]

- ・皆言うことが上手くなっていて、私も頑張らなきゃって思えてよかったです。定期テストの作文ではしっかり自分の考えなど書いてよかった。
- ・自分の考えたことではなく、相手の考えたいところが見られたり、聞けたりしたのでよいところを吸収することができた。ノートには自分の考えたことが書いていたり、メモ欄が充実していたのでよかったです。
- ・グループ活動はみんなの前で発表するより人数が少ないから自分の意見が言いやすかった。グループ活動の方が私はいろいろ言いやすいのでうれしいです。
- ・班のみんなで話し合う機会がとても増えて、竹取物語の発表でもみんなで考えて活動に取り組むことができた。他の人の意見や全く思いつかなかったような考えをたくさん聞いて良かった。
- ・みんなと一緒に考えたりすることで自分の思い浮かばないことが浮かんだり、グループの分担を公平に決めたりすることができたりして、ひとりで学習するより発想が広がって良かった。

- ・上記の感想からは、生徒がこの学習に意欲的に取り組めたことがわかる。グループでの交流学习が学習意欲を刺激して効果をもたらしている。
- ・生徒同士がお互いの考え方を認め合い、課題解決に向けて話し合えるグループ学習が成立するための学級集団づくりが進んでいることも評価できる。

[校内研究の視点から]

- ・3年間の研究指定により、国語科のみならず、各教科における授業改善が意識的に行われ、生徒に力をつけることができた。

(2) 課題等

- ・評価テストの結果から、「複数の資料から情報を取り出し、根拠を挙げて自分の考えを述べる」ことについては引き続き課題があり、継続した取り組みが必要である。
- ・引き続き授業改善に取り組み、評価テストの結果等と照らし合わせながら、取り組み目標を設定し、校内研究を進めていく必要がある。
- ・今後の交流学习を進めていく上では、学級に学び合う姿勢が必要であり、日頃からの学級集団作りが欠かせない。学級集団作りの視点を意識して取り組む。
- ・学習目標を設定する中で、どの生徒も取り組んでいけるよう、今回活用したような「ヒントカード」など、スモールステップを設けて、ワークシートや学習教材などの開発をしていくことが重要である。
- ・ICT 機器によって、生徒が学習内容を理解したり、補助資料を見て学習を進めたりできるように、効果的に活用できるよう工夫していく必要がある。